

事業番号 1-4
細事業名 家庭系ごみ収集事業
担当課名 環境衛生課
会議内容 平成24年7月20日 事前説明会

事業担当課より説明

～ 質疑応答 ～

(評価者) ごみは集積場所に集めてからパッカー車で収集するという。計算が難しいと思うが、各家庭から集積場所への距離を感覚的なもので良いので教えてほしい。遠いのか近いのか。それからもう一つは集積場所の維持管理は、多分自治会さんだと思うが、どこがされているのか。最後に、ふれあい収集は直営ということだが、わざわざ業者が別の車で回るのか、そのあたりの回収の仕方について。以上の三点について教えていただきたい。

(担当) ステーション方式でごみの収集をしておりますが、各家庭から集積場所までの距離については把握していない。ただ、市域の特性があり、大規模開発では区画されたごみ置き場が設置されているところもあるが、それ以外では基本的には路上排出という形になっている。したがって距離は把握していない。次に、ごみ置き場の維持管理だが、基本的は地元の自治会にお願いしているというのが実情。ふれあい収集については、河内長野市では通常ごみの収集は100%委託しており、このふれあい収集だけは市が直営でやっている。車両も既存の2tのダンプを利用し、人員も市の再任用職員2名で回っている。先ほどの各ごみ集積場所について補足すると、本市の特徴としては非常に人口が集中しているエリアと、山間部とがあり、当然ながらステーション形式では山間部になると個別収集に近いごみの出し方になり、1か所のごみの量はかなり減るかと思う。なお、市内の集積場所の総数は3,000～3,500か所あるが、市に移管された置き場は310か所程度。それぞれの間の距離というのは、地域によってまちまちというのが市の状況を見ていただくとご理解いただけると思う。

(評価者) 確かに山間部では集積場所までの距離がかなり長い。だからまだ若い人がいる間はいいが。家の近くまでパッカー車が入れないというのは今後の課題になってくると思う。それともう一つ、ごみの排出量がグラフに書いてあるが、どうやって量っているのか。人口が減ってるのに、分別もかなり正確にされているのに、燃えるごみの量があまり減ってないように思うが。

(担当) 地域の特性があり、山間部等々では家が離れているため、確かに高齢化が進んでおりごみ出しが困難な状況があることは理解しているが、これは地域の方のご協力

のもと、円滑なごみ収集に協力いただきたい。ごみの排出量は、第2清掃工場に搬入しているごみから計算している。人口の減少は確かにあるが、現在のところ世帯数がどんどん増えているという状況。人口は減っているが世帯分離等で世帯は増えているというような状況がある。どちらも全国的な傾向だとは聞いているが、結局そういうことで世帯数が増えている。それから分別も相当していただいているが、成分分析を行うと生ごみの中にまだ分別可能なごみがたくさん含まれてるという状況。そういったところでどういう風に市民の皆さんに協力いただくかというのが今後の課題になると思う。もう一つ、人口は減少傾向にあるが世帯は増えている。いまだに増えているという状態。過去最大の世帯数になっている。国の環境白書にも載っているが、人口が減少して、それからしばらくは世帯数が伸びる。核家族化などで別れて世帯が増えるという現象は学術書にも書かれている。また、食品ロスが高齢化すると多くなるということもある。ドラスティックな現象というのはこれから先になる。

(評価者) 財政がどんどん逼迫していく中で、委託料の5億1,500万円。これは随意契約ということだが、随意契約というのは本を読みますと契約方法は市の裁量によって委ねられている。裁量というのは何かと言うと、自分の考え通りに物事を進めていくということ。それから最後の方にこの事業について市民に聞きたい内容は特になしとなっていて、どういうことかと言いたいが、この5億1,500万円の随意契約は他の各市町村や県でもいろいろ言われていて非常に困った問題である。そこに競争が入ってないということ。これは何かと言うと、収集機材であるとかパッカー車であるとか、業者さんが持っているものを維持していくためには、まあ簡単に言えば同じ業者さんに委ねざるを得ないということになる。ということは未来永劫ずっとこのままいくことになるのかということだが、競争なしでは当然馴れ合いになるし、焼却場で1t190円という支払義務、それから世帯当たり平均で800gと量が出ていると。この計算で粗い計算でいくと、業者さんの人件費、運転手さん補助員、それから車の維持費、ガソリン代も入る。そういう諸々を計算してもちょっと多いんじゃないかなと。競争が無くこのままというのは、見直しすべき部分がかなりあるのではないかと。競争入札と言ったら先ほど言いましたように車が固定化されているので業者の入れ替えができない、というようなことで、例えば思い切った構想だが、市がパッカー車を引き取る。そして、シルバー人材センターに運転手等の人材を募集して市で独自でやる、ということになるとかなり金額が違ってくる。荒い計算だが。この5億1,500万円が、未来永劫ずっと競争なしで、見直しの手の届かない暗闇の部分になってしまっている。それからもう一点、ごみの減量化に向かってということで、成功している自治体では有料袋を導入している。ごみをたくさん出したらお金をいただくということで、有料袋のところではごみの量が右肩下がり減ってきている。先ほどお話があった生ごみについては、例えば

花の文化園や農協など生ごみを大量に扱うところでは、奈良で採用しているem菌という、これは乳酸菌とか光合成菌とかいろいろ5種類ほどの菌を集めたものだが、この菌を使って生ごみを肥料に変えるということをやってはどうか。肥料化して樹木などにやると非常に効果がある。これも一石二鳥というのか、多少初期投資はあるが、そういういろんな新しいやり方、方法はまだ世の中どんどん進化しているので、旧態依然という形ではなくて、知恵を絞りながら見直しをしていただくという、この二点を進めていただければありがたいと思う。

(担当) まず最初に謝らなければならないが、リサイクルの面でご意見をお聞きしたい件があり、次回までに修正したい。まず随意契約から説明します。ごみ収集業務のこれは市の固有事務ということで、地方自治法の第234条の規定は直接的には適用されない。つまり、市の裁量に委ねられているが、市が勝手にしていいということではない。市としてもできるだけ安く、そして安全で効率よくというのは考えている。それと以前は入札ありきであったが、最近は随意契約についていろいろと見直し、再評価もされてきているというのも事実。それについて随意契約を妥当とした東京高裁の判例というのものもある。それと本市の特色というのが根拠の一つとしてある。本市の場合、仮に入札するとなった場合、条件付き一般競争入札というのを契約事務規則で決めているが、条件付き一般競争入札、地方自治法に関係するのだが、その入札は電子及び紙で行っている。まず、入札を行う場合に市内に登録業者があるかどうか。市内に今登録されている、入札するために登録されてる業者の中に清掃業務、収集業務で実績を有する業者は現行2社しか無い。それが一番の根本的なネックになっている。それなら市内外にも範囲を広げればいいのではないかという次のステップを考えることになる。その場合に、市内に事業所が無いところが普段の家庭系の収集業務で臨機応変な対応ができるのかどうか。それともう一点が地場産業の振興という面で、地元の事業所の育成ということもある。もう一点、まず入札において国の示す積算方法、これが非常に組みにくい。一部入札をしているところでも、プロポーザル方式という、別に特化した形、いわゆる提案型という形でやっておき、それであればまだ考えられるが。今後もし仮に導入した場合でもマイナスファクターとしては、現在の業者は継続して随意契約をし、人口の伸びに合わせてパッカー車などを揃えてきたという経緯があるので、一定の既得権と言いますか、そういう保障というのの中に入ってくると考える。できるだけ競争原理を入れたいと考えているが、いろんな問題がある。それをクリアするには一定の年限が必要。例えば近隣にそういう事業所が多い地域は良いが、東南部に位置しているので、他の地域の業者も参加できれば良いが、まず近隣の状況を見ながら研究していきたい。ただ、一点申し上げたいのは、単価的にはこの周辺ではかなり低い額で頑張っている。本市を取り巻く近隣の市町村の中では、本市は安い。1人あたりの世帯の単価も低額になっている。それと、ごみ袋の有料制は次の問題。確かに近隣

または近くにある他府県の都市でもそういう風にやっているところ、まあ橋本市もそういう風にやっているかと思うが、本市の場合は3市2町1村で構成する南河内環境事業組合の共同方式をとっていて、先ほどもそのメリットについては申し上げたが、確かにゴミ袋を買わなければならないのでそういう面での一定歯止めはあるが、お金を持っている人はどんどん出せるという面もある。そういう面があるのでそれぞれ一定の公平性を担保した中で、ある程度世帯に合わせてシールを配る。ゴミを出していただくことで一定の公平性を担保しているのではないかと。そして最後の分で歯止めをかけることができるメリットがあるのではないかとこのところをご理解いただきたい。

(評価者) 身近なところで、多種多様なニーズに応じていくと事業課題のところでは書かれているが、多種多様というのは山村、高齢者世帯というところぐらいしか想定していないか。

(担当) 多種多様な施策というのは、これからいろいろ研究しなければならないが、本市の場合はステーション方式ということで、集積場所に出していただいている。一方、戸別収集という形をとっている自治体は直営のところが多いが、それとの乖離というのはある。確かに利便性は家の前に出せる方が向上すると思う。しかし本市では地域の方の協力によりステーション方式が定着しており、戸別収集をやっている市と比べるとかなり安い金額でゴミ処理ができていていると思う。戸別収集にすると最低でも1.2倍から1.5倍、本市のように高低差があるところはそれ以上にかかる。ふれあい収集については個別に回って収集する、単に画一的なステーション方式ではなくエリアに合わせて、例えばこの地域についてはどういう風にしていこうとか、バラエティに富んだ形をこれから考えていきたい。そしてまたリサイクルの方法も今の項目を市民との協働によりもう少し増やしていく。それが多様性です。

(評価者) もう一点、確かに広報で年に一回これが配られてくるが、ゴミ処理、出し方のこと、これでは本当に分かりにくい。この間見学させていただいた時にパソコンではもう少し細かいことが書かれていると言われたので、パソコンを開いて見たが、暮らしていると迷うようなゴミがいっぱい出てくるので、その時にどうしようか、今言ったみたいにいちいちパソコンを開けるのはとても不便だと思う。高齢者世帯のようにパソコンを扱えないところはとてもお困りだと思うので、冊子を行政の窓口や公民館でも置いていただくとか、市役所、三日市窓口センターに置いていただいたら高齢の方に持って帰っていただきやすく、分別もしやすいのかなと思う。

(担当) ありがとうございます。早速その方向で検討します。

(評価者) 平成7年からシールを配布ということで、いち早くやっておられる。初めはシールが足らなくてよく買いに行ったが、今は控えるようになってゴミが非常に少なくなった。しかし、家族が増える時期があつて、そういう時はすごく憂鬱だけど買いに行かないといけない。それと今までは靴などはみんな燃えないゴミに出してい

たが、今は全部燃えるごみになっている。それでごみが減らないのだと思う。本当に生ごみだけ入れていた時代と、今は発砲スチロールも分けていますよね。プラスチックも分けている、もちろんペットボトルも分けている。その割に減らないというのは、逆にそういう一般のいろんなごみがそこに入っていきようなことがあって減らないのじゃないかを感じる。それから、カラス対策でごみをシートに包んでいるが、カラスは賢い。上手に開けてつかれる。そういうのを研究していただいて、こんな情報があるということも教えていただけたら有難い。今巷で話しているのはみんなカラス対策のこと。ネットがいいのかブルーシートがいいのかとか言って話していたら、ネットもつかれるよというようなことになって。そんな対策も考えていただいたらいいなというのと、ふれあい収集も結構だが、やはり隣近所がもう少し気を付けてあげないといけない。それとごみの回収が分別によって何回もある。そうするとお年寄りがいろんな日に持って来たりしている。あれも私たちがもっと気を付けてあげないといけないのかもしれないが、それともう一点言いたいのは、安かろう悪かろうでは困るので、今収集業務について積算して、これだけのお金を出しているとおっしゃったが、以前と比べると収集の方は非常にきめ細か。ごみが散らばっていたら掃除もして下さるし、植木を出しても必ず葉っぱを掃除してくれる。今はそこまでしてくれている。だから私はごみのことで今そんなに困っていない。あとはカラス対策。今日いろいろ聞いていて、近隣がお互いにサポートしていかないとだんだん離れていくと思う。お互いに触れ合っていたら、一緒にふれあいましょう、一緒に行きましょうとか言えるが、それがだんだん希薄になってきているので。今回は勉強になった。そんな感じで特別に何というのはないが、カラス対策などについて教えていただけたらいいと思う。それと大型ごみは回収する前に業者がみんな持って行ってしまふ。良いものだけ。その時にちょっと荒らされている時があるが、対策は何かしておられるのか。業者がくるのは夜。そんなこともある。細かいことは分からないが、主婦としての感覚はそんなところ。

(担当) まずごみの総量について。本市の市民1人1日当たりのごみの発生量は874g。大阪府の府民の平均は1,173g。かなり減量が進んでいる。その中でさらに減らしていくのはかなりハードルが高い。em菌は過去に何年間か実施した。いわゆる「ぼかし」。そういう有機的に発酵、分解させて減量していこうとも考えたが、財政健全化のこともあり、皆様でお願いするというので、市で容器や薬剤を配るということは現在行っていない。カラス対策は、抜本的な対策というは非常に難しい。ケージを全ての集積場所に設置できれば良いが、開け閉めの問題などの問題がある。路上に放置するとどうしてもカラスが来るが、今民間でカラス除けの物品も販売されているが一過性のものが多いと聞く。それと忌避剤もあるが、人間にも少し匂いがする。これについては、今後情報収集をして、市民の皆さんに一番いい方法をお伝えしたいと思う。もう一つ、ふれあい収集を進める中で気になっているのは、従

来から培ってきた隣との絆。ごみ出しができない時にはそれを隣の人が階段の少し手前まで手伝おうというもの。それが希薄になるのではないかというのを心配している。今回は要介護2以上や他の障害をお持ちの方で、どうしても難しい、それから隣近所にも手伝ってもらえない、そのような方に限定してということになっているので、やはり最低限、狭間を埋める施策であるというのは間違いありません。大型ごみの抜き取りは非常に大きな問題。実はこの点についても聞きたいことがある。現在粗大ごみや資源ごみの置き場に朝6時～9時、そして夜の6時～9時は人材センターに委託し、各地域の抜き取りのパトロールを行っている。また抜き取りに対して、一定の勧告、それでも連続して行う者については行政指導、そして罰金ないし過料という形も条例で定めた次第である。しかし最近はかなり率が高く、それ以外の時間帯に職員も行こうということで、もっと遅い時間帯に抜き打ちでいろんなところを回る予定。それは最近のリサイクル率にも影響している。危険を伴うので、いろんな業者があると思うので、市民の皆さんにはこういうことがあったという連絡をいただいて、連絡を密にして対応していきたいと考えている。

(評価者) リサイクル率が26.9%であったりとか、1人当たりの排出量が他市に比べて非常に少ないということは、多分、市関係部局の取組み等に加えて、市民の方々1人ひとりの生活パターンの豊かさがあると感じた。今後、ライフスタイルの多様化あるいは変革が進むと、ごみは増えていくのか減っていくのか。どのような展望をお持ちか。

(担当) 詳しく検証を行ったことはないが、学術書等を読みますと、核家族はこれからも進んでいく、そして空家もこれから増えていく。それから高齢化が進むのも間違いないと思う。私も驚いたのですが、若い人の方が食品ロスが多いと思っていたのが、実は高齢者の方が食品ロスが多い。これはやはり先に買っておかないと、なかなか買いに行けないということで、冷蔵庫に食品をストックしておくということになる。今後はそういった形で食品ロス、無駄なものが増えてくるというのが課題となる。

(評価者) 食品ロスに対しては先ほどのem菌の復活を考えると、若い方は食品は少ないが、私自身の毎日の生活を考えると、通信販売などで、どうしても紙ごみ、ダンボールごみをたくさん出してしまっているところがあると思うので、新たな生活スタイル、生活の仕方の違いに対応していくということも必要なかと思う。また、資源ごみの研究もしているということですが、次の可能性として、どんな資源が新たに考えられるのか。

(担当) 府内で上位に位置するリサイクル率ですが、若干下降気味であり、次の施策を考えているところ。重たいものをリサイクルしていけば自然とリサイクル率アップにつながるのではないかとということで、先日、生駒市に見学に行った。生駒市では市民の方が主体となって、陶器のリサイクルに取り組まれているので、それを研究

してリサイクル率アップにつなげられないかと考えている。

(評価者) あとは剪定枝、街路樹や公園、もしくは各家庭から出てくるものが増えている。

これをバイオマスエネルギーにするのか、堆肥にするのかということがあるが、他市の事例等を研究してほしい。ただし、トータルのエネルギー効率で考えなければ、やって多くの電力がかかるとか、結局使われないということもある。トータルのエネルギー効率を見ながら資源化を進めてほしい。

(コーディネータ) この事業に関してはご要望や、実情を理解したいという意見が多い。最終的に評価につながる質問があまり無い。現状は皆さん肯定的に評価していただいていると思う。次のステップとして評価を深めていくために必要な資料というのを考えたのだが、一つは指名業者について、随意契約である理由。これは先ほどの説明でみな納得してはいるが、もう少し丁寧な説明資料が欲しい。それと合わせて1 t当たりの委託料の他市比較ができないか。説明の中では他市と比べるとかなり安いという言葉がたくさん出てくるが、それを比較できる資料が無いので、本当に安いのかどうか分からない。次はその資料を出してほしい。市内に登録業者は2社しかないということだが、現在2社とも参入しているのか。

(担当) はい。

(コーディネータ) 区域を分割して持っているのか、南部北部で分けるなど。

(担当) はい。

(コーディネータ) それと、ふれあい収集は直営と書いてあるが、これは行政の直営の職員ということか。

(担当) はい、市の職員です。

(コーディネータ) 次回、討論を深めるといいかなと思うのは、リサイクル率の上昇のための政策、方向。それから全体な減量に向けての今後の取組みの方針。これについてもう少しつつこんだ形で討論できればと思う。その上で、各委員の評価を頂ければと思う。

(評価者) もう一つよろしいですか。河内長野は排出量が少ないとのことだが、1人当たりの家庭ごみの排出量を見ると結構多い。これはどういうことか。大阪市が1日当たり589gに対して河内長野市は716gで、府内の上位に入ると思う。ということは、河内長野市は各家庭で結構ごみを出しているってことになる。

(担当) これは集団回収。

(評価者) 集団回収はその右の段、真ん中の家庭系ごみのこと。集団回収は量が少ないのでとりあえず無視する。家庭系ごみと書いてある部分。事業系ごみは少ないが、これも量が少ないので。

(コーディネータ) 大阪府内平均648gに対して河内長野市は716gとなっている。

(担当) このデータは集団回収を含むので純然たるごみの量ではないと思う。

(評価者) 集団回収は量が少ない。河内長野の排出量が少ないという説明の根拠としては

- どこを見ればよいか。
- (評価者) 先ほどごみの総量のところの数字を説明されていたのでは。家庭系ごみのところを見なければならぬのでは。
- (評価者) 総量は人口が多ければそれだけ増えるので、1人当たりで見なければ。
- (担当) 大阪市の例で見ましたら、集団回収が39gなので、これを引くと550gということで、集団回収量が多く、それを上乗せした数字になっている。
- (評価者) 集団回収は、トン数に対して、対象人数は分かるのか。
- (担当) 人数は分からない。箇所数と回数しか分からない。
- (評価者) 排出量が多いのであれば、もう少し減量運動をしなければならない、市民への意識啓発をかなりしなければならないと思う。
- (担当) このデータで家庭系ごみの中の集団回収を除いたものを作成し、近隣と比べて本市の排出量が少ないというデータもあるので、追加します。
- (コメンテーター) この表をもう少し精査して説得力ある形で再提出をお願いできますか。
- (評価者) 説明していただくというよりも、問題がここにあるのかと思っただけで、問題が無ければそれでいい。
- (コメンテーター) 実は私も同じ疑問を持っていた。排出量が多いのだなと。まだまだ減量の余地はあるのではないかと。それなのに、少ないという説明があった。今、論点整理しましたように、指名業者の随意契約については、これは決しておかしいことをやっているわけではないと私も思う。地方自治法施行令に定められている随意契約の選定理由に該当すると説明すればいいと思う。しかも市内業者が少ない、そして市外業者を参入させるとこういうトラブルが起こるとのこと。横浜で起こった事件などいろいろある。新たに参入を許した自治体と、許してない自治体。許すなら許すで、トラブルが起こるし、許さないと癒着が起こりかねない。それを防ぐ努力をどのようにしているのかの説明をいただきたい。それからトンあたりの委託料の比較データがあれば出していただきたい。それによって河内長野は安いということが評価できるのではないかと思います。リサイクル率アップ、あるいは減量化に向けての政策、取組みあるいはその方向性を示していただければ結構かと思う。どうもありがとうございました。
- (担当) 一つだけ報告を。河内長野の処理基本計画の平成20年度のデータで、本市の1人1日当たりのごみ発生量は、府内の43市町村の中で6番目に少ないという結果が出ている。そのあたりについて、次回きちんと立証できる形で説明したい。